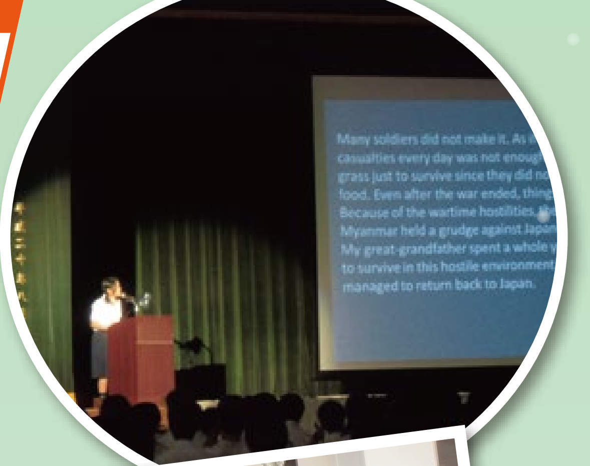
不壊（ふえ）
久留米高校 PTA だより

第 84 号
発行　久留米高等学校 父母教師会
編集　企画広報委員会

校訓　気魄　叡智　誠実

久高祭実行委員長　宮原　大輔（2年2組）

今年の久高祭のテーマは「感歩風動」でした。このテーマには新しい久高を創り上げるという決意が込められており、生徒会や実行委員を中心に様々な新しい取り組みをし、例年以上に充実した祭になったと思います。こうして久高祭が成功できたのは生徒一人一人の協力や、先生方や保護者の皆様の支えのおかげです。ありがとうございました。今回、実行委員をやらせていただくことができたことに心から感謝しています。久高文化を次の世代に繋いで、来年はさらによいものができることを楽しみにしています。本当にありがとうございました。

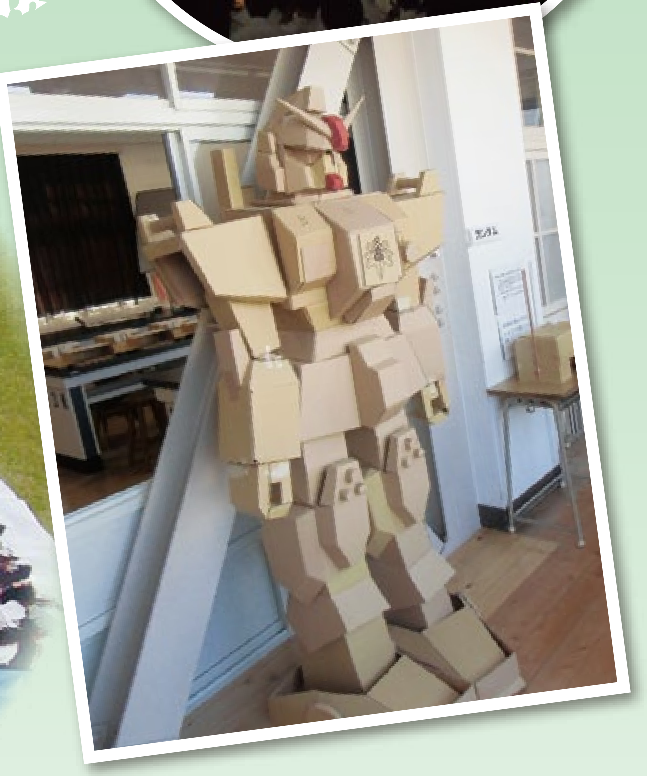


9月19日 久高祭

PTAも久高祭に参加しました！

PTAが久高祭にバザーコーナーなどの企画で参加したのは平成24年度から。文化祭を中学生やその保護者にも公開し、久高をアピールできたら…と当時の校長先生の提案で始まりました。以前は一年生の合唱コンクールも開かれておらず、在校生の保護者も来校する方は少なかったそうです。

今年は開店前から行列ができるほどで、入場者数は500人を超えました。バザー・喫茶コーナーともども大盛況。休憩室も沢山の方に利用していただきました。収益金の活用法については、4ページをご覧ください。



君たち、ノーベル賞を目指してみないか！

今年10月5日に生理学・医学賞（寄生虫による感染症の治療法に関する発見）に大村智・北里大学特別栄誉教授が、6日には物理学賞（素粒子ニュートリノの研究）に梶田隆章・東京大学宇宙線研究所長が選ばれ、2日続けての朗報に日本中が沸きました。また、青色の発光ダイオード（LED）の開発で昨年、赤崎勇さん・天野浩さん・中村修二さんの三名に物理学賞が贈られたことも記憶に新しいところです。

ノーベル賞とは、ダイナマイトの発見者として知られるアルフレッド・ノーベルの遺言に従って1901年から始まった世界的な賞です。物理学、化学、生理学・医学、文学、平和、＋経済学の「5分野＋1分野」で顕著な功績を残した人物に贈られます。経済学賞だけはノーベルの意向とは関係なく、ノーベルの死の70年後に金融機関などの後押しにより設立されました。

21世紀以降、自然科学賞部門のノーベル賞受賞者数において、日本は米国に続いて世界第2位。日本はなぜこんなにノーベル賞受賞者が多いのでしょうか。海外メディアには「日本では江戸時代から数学などで独自の研究が進む一方、唯一通商が許されていたオランダを通じて西洋の近代科学に触れる機会があった」「日本人は努力家であると同時に、自然に接し、多くの本に親しむ幼少期を送ってきた人が多い。子どもたちを取り巻く環境も、日本からノーベル賞受賞者が輩出される理由につながっている」などの見方があるようです。さてさて、本当の理由はどこに…？日本人としての誇りを探りながら、あなたもノーベル賞を目指してみませんか！可能性は無限大です∞

君たち、今年のスーパームーンをみたか！

消えそうな下弦の月に低い位置の真ん丸橙お月様。明け方に白く光る満月を大根さまと言うとか言わないとか…。人はなぜ、こんなにも月に魅せられるのでしょうか。

月が地球に最も近づいた時の満月もしくは新月になった月の姿、またはその現象をスーパームーンといい、通常よりも約14％大きく、約30％明るく見えるそうです。

今年は9月28日のスーパームーンが話題になりましたが、残念ながら当日の九州地方は曇り。しかし、翌日の月はそれはそれは見事なものでした。1日のズレはあったものの、とても大きく光り輝く姿に言葉を失うほど。

実はスーパームーンをみられる回数でいくと、昨年が当たり年だったとか。今年のスーパームーンを見逃したあなた!! 来年の観測計画を今から立ててみてはいかがでしょうか。